

## 自主シンポジウム 4

## 幼児教育現場へのコンピュータ利用

|         |        |                                     |
|---------|--------|-------------------------------------|
| 企画者、司会者 | 村上 優   | 大阪芸術大学短期大学部                         |
| 話題提供者   | 井口 貴久美 | 兵庫県揖保郡揖保川町立 河内幼稚園 園長<br>(半田幼稚園 前教諭) |
|         | 淀澤 郁代  | 兵庫県揖保郡揖保川町立 半田幼稚園 教諭                |
|         | 岸本 義博  | 兵庫県揖保郡揖保川町教育委員会 前教育長                |
| 指定討論者   | 小野 和   | 成徳短期大学教授 附属幼稚園 園長                   |
|         | 倉戸 直実  | 大阪芸術大学短期大学部教授                       |

## I. 企画趣旨

幼児教育へのコンピュータメディアの利用は、現在大きな課題となってきた。さらにこの課題は、近未来の保育現場においてもその重要性が増加することが想像できる。しかし、多くの幼児教育関係者は、コンピュータの持つ特異的なツール属性と、実践事例の少なさから、その利用方法や教育効果について、確固たる確証を持つことができない状態であると考えられる。

コンピュータメディアは、幼児教育現場で利用できるのかそれともできないのであろうか。そして利用できるならば、どのような利用法が可能であるのか、その時どのような環境構成が必要とされるのか、さらにどのような問題点と教育効果が現れてくるかについて、多面から考えていくことが必要であると考え、この自主シンポジウムを企画した。

## II. 討論の意図・課題

## 1. 討論の進め方

「幼児教育現場へのコンピュータ利用」というテーマを追求するうえで、シンポジウムのディスカッションが抽象論だけで終わってしまったのは、幼児教育現場における今後の発展性は期待できない。具体的な実践事例に基づいて、ディスカッションを進めていくことが要求される。しかもその保育実践は、ある特定時期に単発的、実験的に行われたものでなく、長期に渡り、確かなコンセプトのもとに実践され、その後、数々の形成的な評価がされた実践事例が必要になってくる。

そこで、本シンポジウムでは、この条件に適する実践事例として、兵庫県揖保郡揖保川町立幼稚園の実践事例<sup>1</sup>を選択した。コンピュータメディアを利用し、

カリキュラムの中に統合した実践を長期にわたって行ってきた兵庫県揖保郡揖保川町立半田幼稚園の実践事例とその教育的な効果を中心に、現場教員と教育委員会から話題を提供していただく。その後、その実践をすすめる上で現れてきた、問題点と解決のプロセス、教育効果などについて、心理学、保育学、メディア論などの視点から考察を進めることにする。さらに、アメリカでの状況を紹介するとともに、コンピュータメディアに対する両国のガイドラインの違いを比較したい。

## 2. 現在の社会環境とメディア

シンポジウムを進めて行く上で、現在の社会環境について認識しなければならない。特に、コンピュータを含むメディア環境が、どのように変化してきているのか、そして今後どのように変化して行くかを予測することが必要である。現在、子ども達は、すでに情報社会の中でその大部分の生活時間を費やしているからである。この現在の社会環境の変化と、子どもへの影響については、以下に述べる文部科学省の『時代の変化に対応した今後の幼稚園教育の在り方に関する調査研究協力者会議』の報告書を参考にしたい。

時代の変化に対応した今後の幼稚園教育の在り方に関する調査研究協力者会議による報告「時代の変化に対応した今後の幼稚園教育の在り方について—最終報告—（初等中等教育局幼稚園課 1997/11）」は、現在の社会環境と、幼児の発達の現状を次のように分析している。

都市化、核家族化、少子化、情報化の社会状況の変化が、家庭や親の意識、あるいは地域社会だけでなく、幼児の生活にも大きな影響を与えている。そして、そ

の中で、幼児はビデオやテレビゲームなど、専ら間接情報を提供する様々な機器に取り囲まれて生活している。その結果として、幼児が室内での一人遊びに追いやられる傾向が増大し、逆に戸外で自然と触れ合って遊ぶことが減少してきた。そして、これまで子ども集団の中で伝えられてきた遊びが成立しにくくなってしまった。いわゆる「遊びの喪失」が生じている。

さらに前出の報告書は、この幼児を取り巻く環境の変化が幼児の発達にも影響を及ぼしていると分析する。

記号の操作や情報機器の操作などについての知識や力が従来より早期に獲得され、絵本やテレビ等の情報メディアとの接触も早期に行われ、その結果、世の中についての知識も増えている。しかし、それらは間接的な情報に基づいたものであり、断片的で受身的なものであることが多い。幼児期の体験がテレビやテレビゲームなどの情報機器に偏ってきているため、現実のもの・人と諸感覚を通してかかわる機会が乏しくなっている。さらに、大人に囲まれてすべてを助けてもらうことが多く、生活の上で自立して活動する機会も少なくなってきたり、幼児の発達にとって最も重要な自我を形成する機会が減少してきている。

### 3. 現在の社会環境と保育環境

さて、ここで重要なことは、現在の社会環境が子ども達に与える影響と、教育的配慮のもとに構成された保育環境が子どもに与える影響が、同質なものであるかどうかの認識の違いである。前出の調査研究協力者会議の分析は、その範囲を「現在の社会環境」というフレームに設定して述べられている。しかし、この分析内容が、そのまますべてコンピュータを利用した幼稚園等の保育環境に、そのままあてはまる事であるのだろうか。それとも、保育環境のデザイナーである教育関係者の積極的、革新的、柔軟な発想によってコンピュータを利用した新たな環境が創造されるのだろうか。

現在、わが国において、コンピュータ等のメディアを利用した保育を取り入れている幼稚園の数はアメリカ等と比較するとかなり少ないと言える\*註2。その原因は種々存在するであろうが、その中でも、この調査研究協力者会議の「現在の社会環境」で述べられている内容と同様の危惧を抱いている保育者の割合はかなりののではないかと想像できる。

コンピュータの持つ特異なメディア特性と、比較的近年になって出現したこと、多くの保育者が未体験であること、コンピュータを利用した保育実践事例の研

究が極端に少ないこと等が重なることによって、多くの保育者がコンピュータに対して抱く危惧さらには、期待感にさえ、実証的かつ客観的根拠は少ないと考えられる。

### 4. 保育実践の子ども達に与える影響

このシンポジウムでは、コンピュータを利用した保育実践が、どのような影響を子ども達に与えたかについて、「時代の変化に対応した今後の幼稚園教育の在り方に関する調査研究協力者会議」が、幼児を取り巻く社会環境の変化が幼児の発達に影響を及ぼしていると述べている以下の幼児の発達の状況と、兵庫県揖保郡揖保川町立半田幼稚園での実践例を比較分析しながら進めて行きたい。

#### <時代の変化に対応した今後の幼稚園教育の在り方について—最終報告— 1 幼稚園教育をめぐる現状 3 幼児の発達の状況 より>

- i) 体格はよくなっているが、体力面が低下し、疲れやすい、
  - ii) 間接情報は豊かに得ているが、直接的、具体的な体験に乏しいため実物の感覚がもてない、
  - iii) 自分から進んで環境にかかわることを楽しんだり、自分自身の力で物事を発見したりする力が伸びていない、
  - iv) 依頼心が強く、自分の力で、また友達と協力して物事に取り組む力が弱い、
  - v) 人とのかかわりの中で自己を表出し、自我の形成を図っていくことが十分でない、
  - vi) 基本的な生活習慣の形成が十分でない、
- などの傾向がみられることを指摘している。

#### 註

\*註1 兵庫県揖保郡揖保川町教育委員会と大阪芸術大学短期大学部保育学科を中心とする研究グループとの共同研究（平成 11～13 年度 科学研究補助金 基盤研究 C）により、揖保川町立半田幼稚園において、コンピュータメディアを利用し、カリキュラムの中に統合した3年間にわたる保育実践研究を進めてきた。

\*註2 日本とアメリカの保育現場へのコンピュータメディアと教員のコンピュータメディアへの意識の違いについて、現在、The College of New Jersey の Dr. Alex Pan と大阪芸術大学短期大学部の村上 優との共同研究で進行中である。